

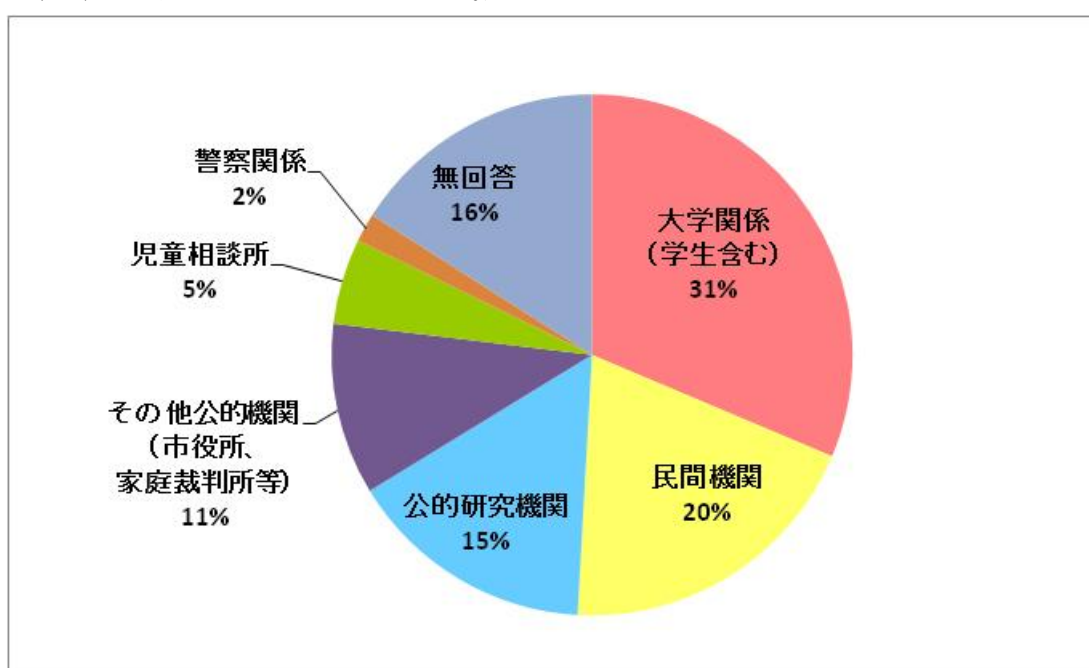
平成 23 年 9 月

「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域

国際犯罪学会 第 16 回世界大会 公開シンポジウム
「科学的根拠に基づく子どもの被害防止—研究から実践へ—」
アンケート結果

1. シンポジウム参加者の所属別内訳

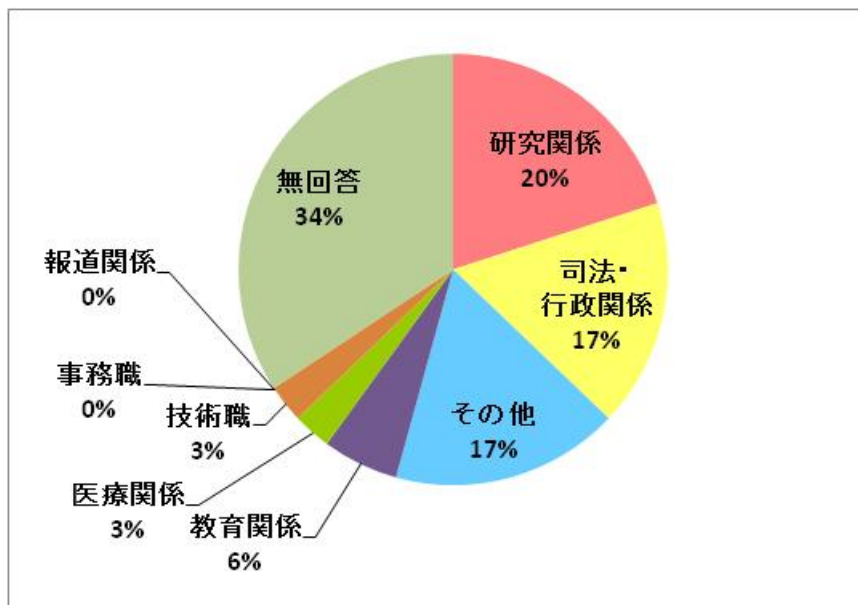
178 名（当日に受付にて登録を行った方のみ。）



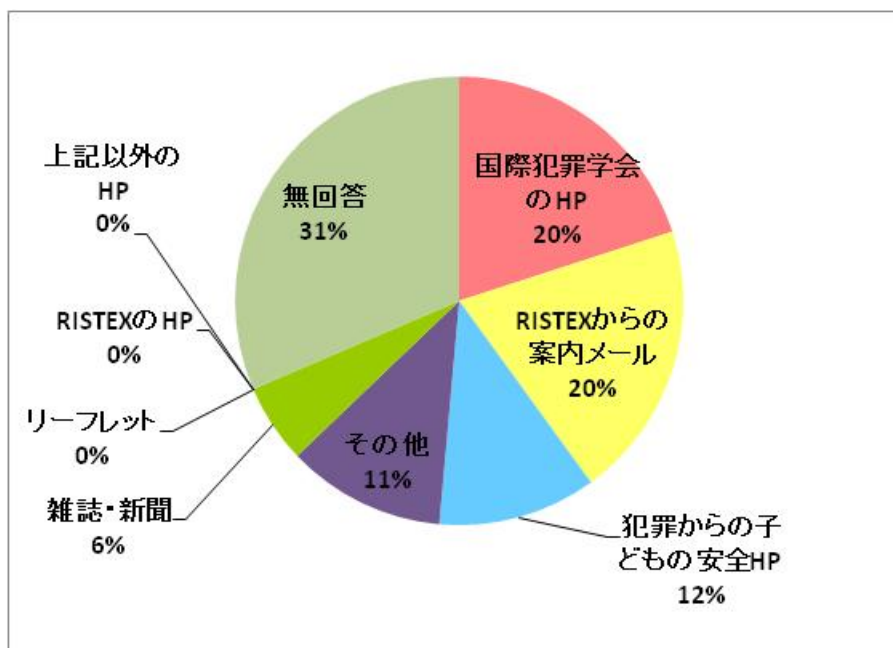
2. アンケート

調査方法：シンポジウム入場時に配布しシンポジウム終了時に回収。

2-1. アンケート回答者の属性（有効回答数：35）

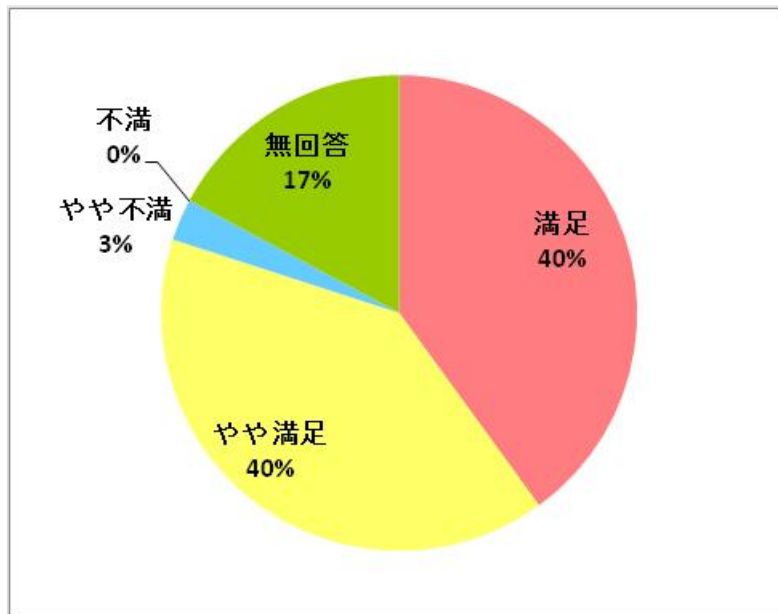


2-2. シンポジウムの開催をどのように知ったか（有効回答数：35）



※その他の回答：所属学会からのメール、大学教員から教えてもらった等。

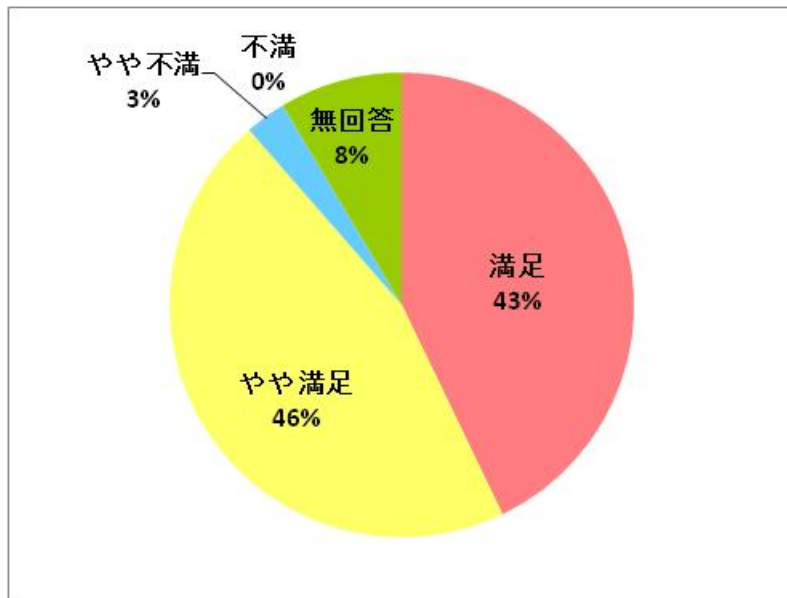
2-3. シンポジウム全体について（有効回答数：35）



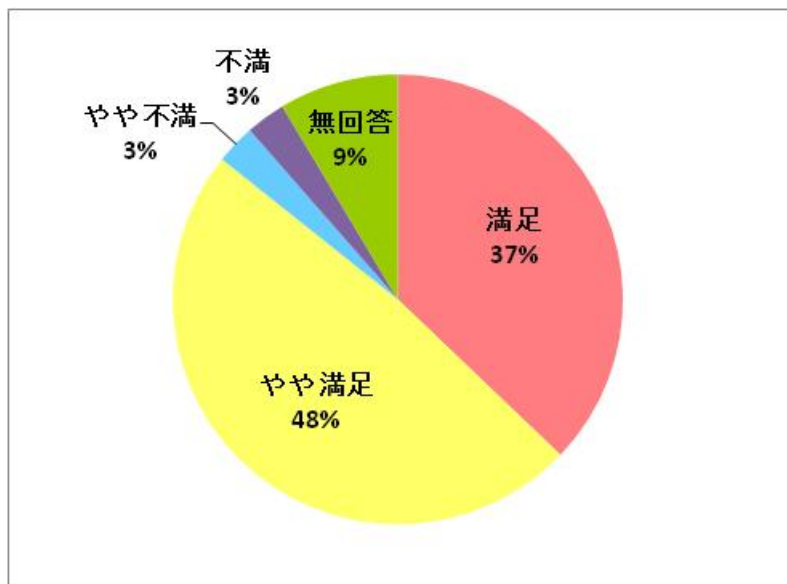
2-4. 講演について（有効回答数：35）

(1) 講演1 「公共空間における子どもの被害の把握」（原田豊 博士）

a. 科学的根拠に基づく被害防止の視点からどのように思いましたか

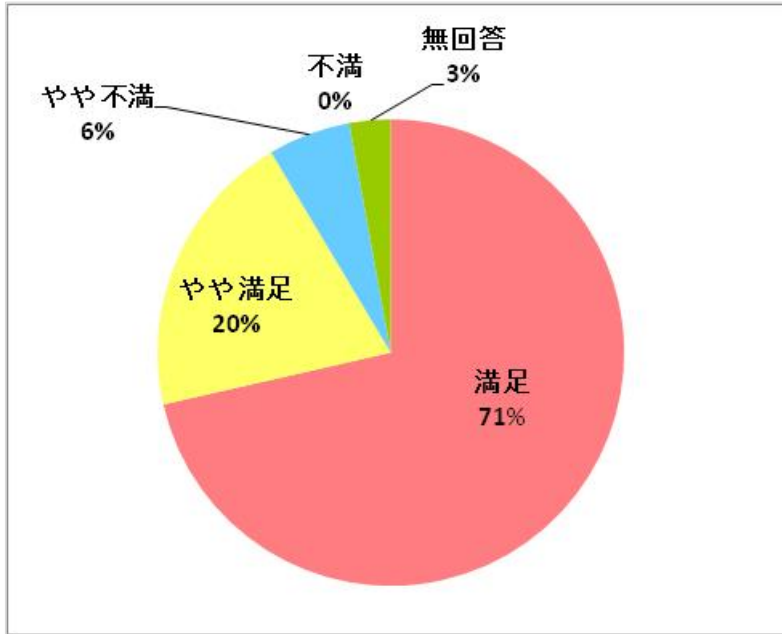


b. 成果の社会への実装に向けた考え方や取組についてどのように思いましたか

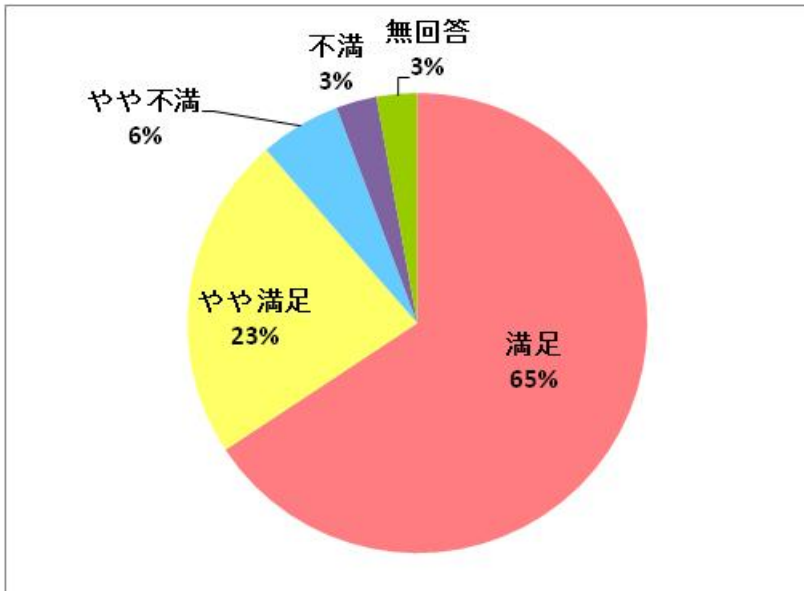


(2) 講演 2 「乳幼児に対する犯罪への科学的アプローチ」(山中龍宏 博士)

a. 科学的根拠に基づく被害防止の視点からどのように思いましたか

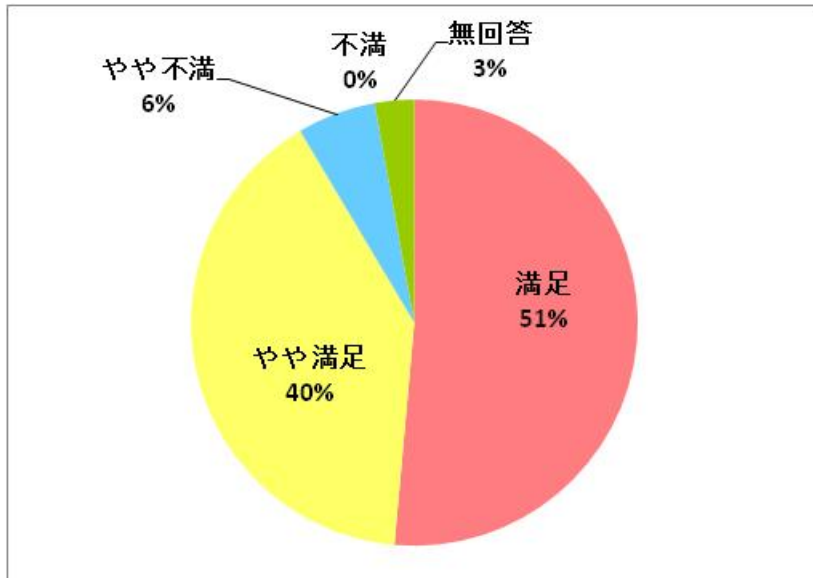


b. 成果の社会への実装に向けた考え方や取組についてどのように思いましたか

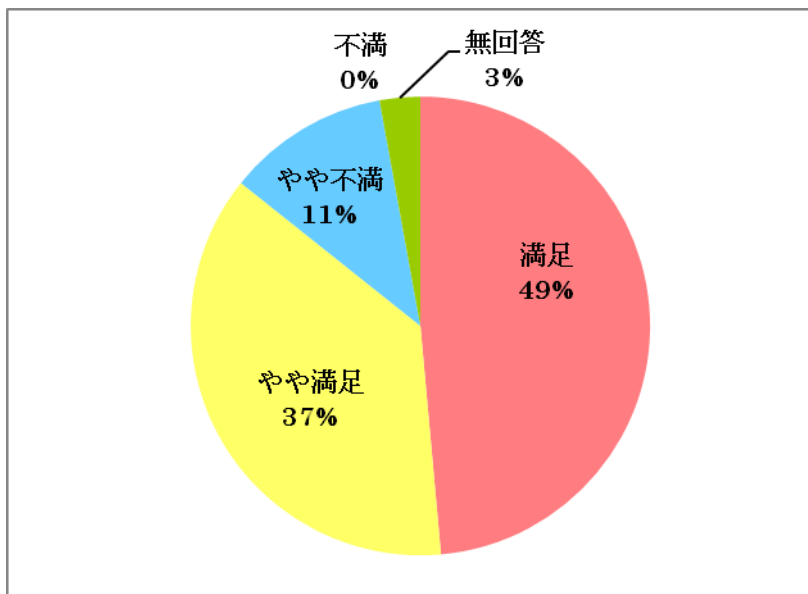


(3) 講演3 「司法面接による子どもの被害把握」(仲真紀子 教授)

a. 科学的根拠に基づく被害防止の視点からどのように思いましたか

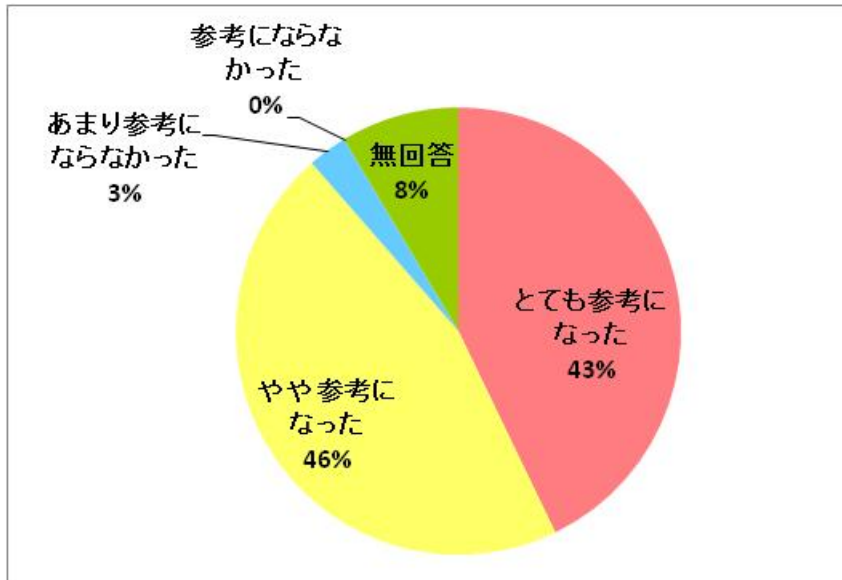


b. 成果の社会への実装に向けた考え方や取組についてどのように思いましたか

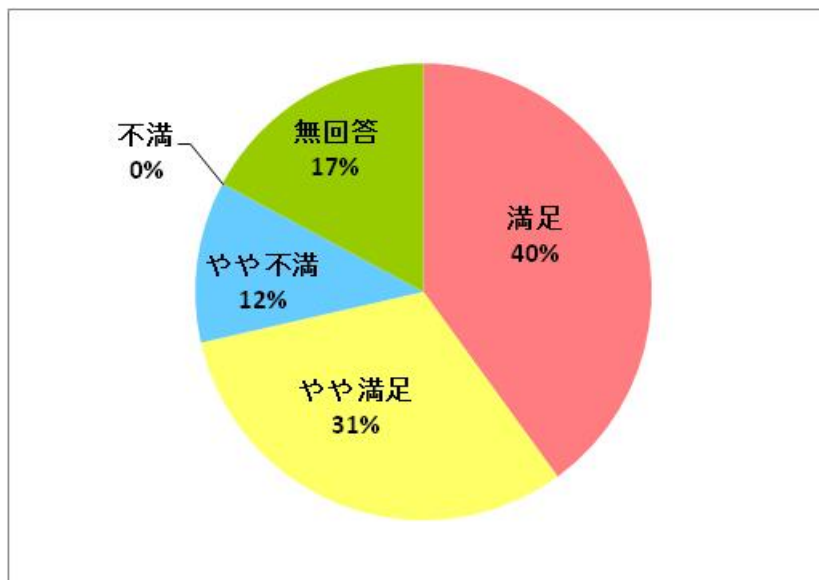


(4) 講演 4 「面接者の訓練：英国における研究者と実務家の協働」(Ray BULL 教授)

a. 科学的根拠に基づく犯罪予防を進める上で参考になりましたか

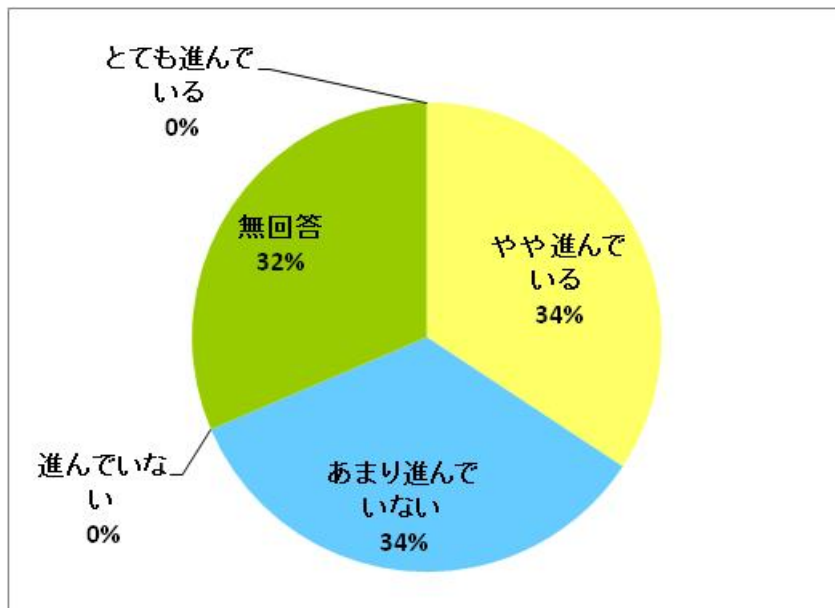


2-5. 総合討論について（有効回答数：35）

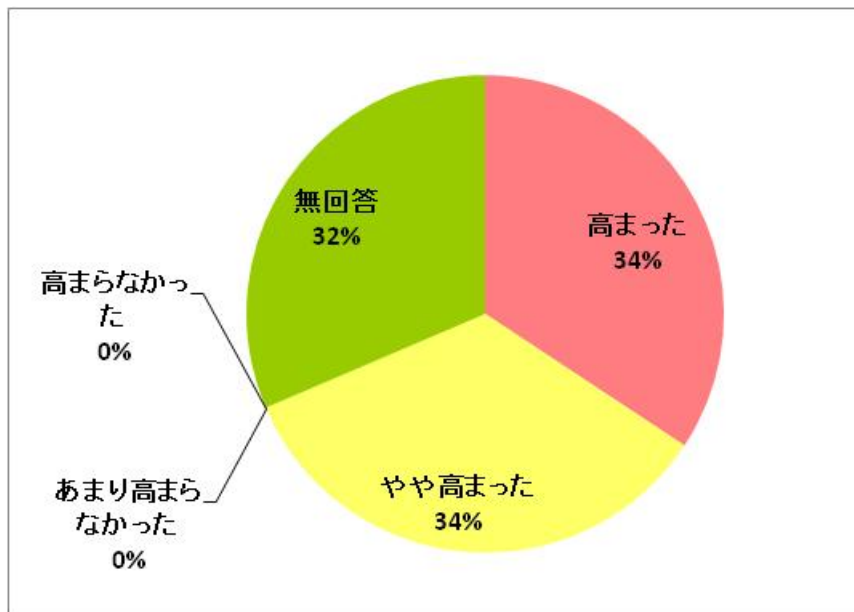


2-6. 科学的根拠に基づく犯罪予防について（有効回答数：35）

a. 日本における科学的根拠に基づく犯罪予防の取組み状況をどのように思いますか



b. 本シンポジウムに参加して、科学的根拠に基づく犯罪予防の重要性に関する認識が高まりましたか



- c. 日本で今後必要な取組みとして重要だと思うものを3つ選択して下さい
 (有効回答数 35) ※2つ以下の選択者、4つ以上選択者も含む



※その他の回答・研究成果の社会還元、多機関連携の再構築

- ・データのアクセス権の拡充
- ・企業との連携（官・学・民・共働）

2-7. ご意見・ご感想

【4つの講演について】

- ・とても良い研究を知って良かったです。うまく、社会にシステムが確立できたと思います。住まいのある地域では、自治会や PTA も役員・委員の押しつけあいがあるので、なかなか困難な事だと思いますが、子どもを守るのは本当に近くにいる大人の目が必要だと思います。
- ・特に原田さんの講演に関して…「地域コミュニティー云々」という文言を聞かされると（マスコミも然り）座して黙します。地域コミュニティーは崩壊しています。
(例：私の地域、PTA の地域) 留守番の年寄り以外、皆、活動できる成年は、稼ぐのに忙しい。たまにボランティアを申し出る人がいても、自分の退屈の吐けになっていて、手を引いてもらうのに、骨を折る。(空想) の地域コミュニティーでは。登下校が心配で GPS ケイタイを小学校に頼みましたが、ケイタイについては、学校のマスの問題があり、禁止です。老人問題（ゴミ屋敷、徘徊 etc...）が大きすぎて、子供に裂くコストもエネルギーも無いのでは？
- ・「子供を守る」事に世界で研究されている事におどろいています。プロジェクトの内容がもっともっと下においてくることを願います。被害防止にどう具体的に取り組み方が弱いと思う。事故が起きてからしか動かないのが不思議です。
- ・講演 2 は通常の意味での evidence based だった。
- ・研究から実践へ、という題であったが、「研究成果」を具体的に示して実践へ、という話ではなかったのも、もの足りない感じであった。原田先生の調査結果は分かっているので良いが、山中先生、仲先生にはもう少し成果を詳しく話してほしかった。
- ・科学的根拠からのアプローチが現時点でどこまで実用性があるのかがより理解でき、また課題があるのがわかった。
- ・RISTEX の紹介を短かくする等して、各講演を少し長めにして頂きたかった。
- ・それぞれの講演はとても興味深く、個人的にはもう少し詳しく（時間をかけて）ご説明下さったほうが良いと思いました。各テーマの関係性・位置付けなど全体的に俯瞰できるような説明がもっとあればいいと思いました。
- ・実におもしろかったです。3つの異なった、ほとんどつながりのない報告でしたが、1つ1つは実に良かったです。
- ・福祉に関係あるところから、2-2（乳幼児に対する犯罪への科学的アプローチ）は、非常に興味深かった。今後に期待しています。
- ・より詳細について知りたいと思いました。とりくみ詳細等を知ることのできるソース（web サイト等）、参考となる文献等をご紹介いただくと嬉しく思います。
- ・初めて聞く内容が多く私には少し難しい内容であった。
- ・良かった。
- ・実装についても、積み重ねとメディアへの搭載が重要。

- ・講演 3「司法面接による子どもの被害把握」が全国の児童相談所に広まって、児童相談所の面接技術が向上すれば良いと思います。
- ・山中先生のソフトが使われるようになれば、もっと児童相談所の機能を縮小できると思った。
- ・多様な領域にまたがる研究であることが良くわかりました。
- ・講演 4（面接者の訓練：英国における研究者と実務家の協働）内容が聞き取りにくい。（同時通訳で）日本語訳の資料があると良い。
- ・新しく知る事が多く、大いに参考になった。

【総合討論について】

- ・これからの活動に頑張ってもらいたいと強く願います。
- ・政治的すぎた。RISTEX の PR が強すぎた。
- ・論点についての Bull 先生のコメントは良かった。
- ・活発な討論であり、今後の課題についても明確に議論ができていたのではないかとおもわれた。
- ・質問をもう少し多く取り上げて頂けると一層良かった。
- ・研究と実践、50 年前からの長く長く続くテーマですよ。
- ・講演を踏まえて、より内容がわかりやすかった。
- ・良かった。山中先生の話が特に参考になった。
- ・研究者向けの討論だった。
- ・もう少し、社会実装について踏み込んだ討論がほしかった。
- ・論点が明確。
- ・具体性に欠けています。日本にも種々の実務の積み重ねがあります。それを調査して研究を進めて頂きたい。

【科学的根拠に基づく犯罪予防について】

- ・この場だけにとどめることなく、広く発信して多くの人に Remind してほしい。
- ・統計的 evidence を絶対視しないための配慮を十分に行ってほしい。
- ・科学的根拠を示さないと行政は動かない（これまでの方針を変えようとしな）いので、犯罪予防の側面でも、実証的な事例の蓄積の発信を進めないと行政官（官僚）と政治家の根拠のない思いつき行政が進められる恐れがある。
- ・是非、有効なデータを蓄積し、現場で活用できる内容（手法）に引き上げていただきたい。
- ・日本側 3 名の研究はいずれも有益であり、児童への犯罪に対応するという切り口で一つのシンポジウムにまとめて頂いたのは有難かった。山中先生のグループの研究は、諸外国にとっても有用だと思うので、将来、典型症例に基づく診断、鑑定マニュアルを

国際的にも利用可能になれば理想的であると思う。

- “科学的根拠”の部分についての説明があまりなかったように感じました。
- 科学の水準と範囲の明確化が必要です。例えば、三平方の定理は直角三角形にのみ適用。
- 現場を知ることが大切であり、データを集めることが予防につながるのだと思った。現場からの声をあげなければ・・・とも。
- 犯罪によって、一生苦しむ事のない社会を実現するために、是非この取組を進展してほしい。
- エンドユーザーが実現可能なモノを開発してほしい。
- これからもアプローチが必要だと思います。
- 特に虐待については、親子・家族への介入にも科学的根拠が必要だが、その面が現状では非常に弱いように思う。
- I think that engineering scientific council is very advanced and effective. It's very difficult to find out whether the bruise is caused by accident or by abuse. However, I think much more datum must be necessary to clearly the incident.

【その他ご意見・ご感想、今後取り上げて欲しいテーマ】

- 空間的行動の把握の具体的な手法的についてより深く知りたい。
- 研究から実践へというテーマのシンポジウムでしたので、できれば研究者サイドに加えて実務（実践する側）の方の話もあればよかったですと思いました。
- 公開シンポジウムであれば、出来れば資料の和訳が欲しかった。
- 基礎的データをきちんと収集する方策について取り上げてもらいたい。
- 社会実装を目指す研究者に欠如してはいけないもの、もってはいけないものは、「自己満足的姿勢、closedにとどまる姿勢、一部・特殊にとどまる姿勢、一般に見えない、広がらないことにとどまる姿勢、上から目線。」
- 親子・家族への介入にも科学的根拠について。
 - To interview with abused-child or suspect and monitor is essential. I have questions.
 - 1 In the case of girl, who is abused, is it better to interview with female that is to say same gender with child?
 - 2 When the suspect is having interview with police doesn't he feel he is forced to convey the truth like future?